

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成26年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
26-3	首都圏三環状概成時を念頭においた料金施策とITS施策による非常時を含む総合的交通マネジメント方策の実用化	一橋大学 教授 根本 敏則	A
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>日常のみならずイベント時においても道路ネットワークの効率的な利用を実現する料金施策の提案を研究目的として、料金施策の要素を理論的に検討するとともに、それらの料金施策を経済モデル、利用者均衡配分モデルなどを活用して評価した。</p> <p><事後評価結果></p> <p>大規模道路ネットワークの料金政策について重要な一石を投じる研究であり、多数の研究発表が行われることで当該研究分野を発展させるとともに、今後もより高度な料金制度の実現への寄与が期待できることから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 料金施策を評価するための利用者均衡配分モデルを構築して、最適な料金設定を検討できるようにしたことは評価に値する。2. 理論的背景は比較的単純なものと言えるが、現実の大規模ネットワークに適用した点は評価できる。3環状の整備やオリパラなど、検討対象が時宜を得ており、道路行政への寄与が期待できる。3. 料金体系が複雑化したり頻繁に変化したりすることによる利用者の戸惑いが生じることが考えられるため、今後の実用化に向けて、利用者の経路選択の中にネットワークの複雑性あるいは料金体系の複雑性を組み込むことができれば、より現実的なモデルになるのではないか。4. 静的な枠組みであれば、実道路ネットワークを簡略化しなくても料金施策(たとえば社会的余剰を最大にする料金を求めること)を議論することは可能であると思われるので、この研究で開発されたネットワーク均衡モデルの範囲内で検討可能な多様な料金施策とその評価について検討されることが望まれる。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第32回新道路技術会議において審議したものである。